

平成20年9月12日
中国電力株式会社
上関調査事務所

上関原子力発電所計画地点における カンムリウミスズメの生息状況調査結果について

当社は、上関原子力発電所計画地点周辺において、国の天然記念物であり、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類及び「レッドデータブックやまぐち」の絶滅危惧ⅠA類に指定されているカンムリウミスズメ（図1参照）が確認されたとの情報があったことから、発電所計画地点周辺海域における生息状況の調査を実施しました。

調査の結果、計画地点においてカンムリウミスズメが繁殖している兆候は確認されなかったこと及び指導いただいた専門家の見解等から、計画地点においてはカンムリウミスズメの繁殖の可能性はほとんどないものと考えています。

なお、カンムリウミスズメに対する今後の対応としては、その重要性や希少性に鑑みて、計画地点及びその周辺における調査を継続し情報を蓄積することが必要との専門家の見解を踏まえ、引き続き必要な調査を実施し情報の蓄積を図ってまいります。その結果、計画地点でカンムリウミスズメの繁殖が確認された場合は、監視委員会等の意見を聞きつつ、生息環境に対する影響が最小限となるよう適切な保全対策を講じることとします。

調査結果の詳細は以下のとおりです。

《調査の概要》

1. 調査期間

平成20年5月～平成20年8月

2. 調査場所

(1) 生息場所確認調査

発電所計画地点周囲及びその周辺海域※（図2参照）

※計画地点周辺島嶼（叶島、鼻繰島、天田島、宇和島、ホウジロ島、祝島、小祝島、八島）の周辺海域

(2) 海岸部状況確認調査

発電所計画地点の地形改変区域海岸部及びその周囲の海岸部

3. 調査内容

(1) 生息場所確認調査

繁殖期の後期を含む5月初旬、5月中旬、7月初旬及び8月中旬の計4回、早朝（5：30頃～9：00頃）と夕方（14：30頃～18：00頃）の時間帯において、船上からカンムリウミスズメを探索した。

(2) 海岸部状況確認調査

8月初旬に、船上から写真撮影を行い、その画像を基に8月中旬に陸上を踏査し、崖の高さ、空隙などを目視確認した。

(3) 既存文献調査等

カンムリウミスズメに関する文献を収集し、分布や生態的特性等を整理すると共に、カンムリウミスズメに関する調査研究に従事されている学識経験者に聞き取り調査を行った。

4. 指導を得た専門家

調査にあたっては、以下の3名の専門家から指導を得た。

- ・橋口 大介 氏（日本鳥学会 会員）
- ・藤田 泰宏 氏（日本鳥学会 会員）
- ・福田 佳弘 氏（日本鳥学会 会員）

5. 調査結果

(1) 生息場所確認調査

5月の2回の調査ではカンムリウミスズメを確認できなかったが、7月初旬に行った調査の結果、八島の南方海上を主として延べ49個体を確認した。5月に確認できなかった海域では1～2個体の少数を確認した。8月中旬の調査では小祝島南西で1個体のみを確認した。

(2) 海岸部状況確認調査

荒天時でも波飛沫に洗われることがほとんどないと推測される海拔10m以上の岩場は、計画地点南側の小島から放水口予定地付近と取水口予定地のある北岸の一部にみられる。また、空隙が比較的多い崖は計画地点南岸の地形改変区域外にある。岩の堆積地（転石地）では石と石の間に多数の空隙があるが、その大半が波の影響を受けやすい海拔5m以下であり、数少ない海拔10mを越える所は、主に地形改変区域外にある。

(3) 既存文献調査等

世界最大の繁殖地として知られる枇榔島（宮崎県）周辺ではカンムリウミスズメは、12月ごろから集まり始め、2月下旬から5月下旬まで繁殖する。繁殖地は、人の営む場から離れ、捕食者がいないか少ない所で、波浪等の影響をほとんど受けない海拔の所であり、営巣に利用する環境は、空隙や窪みのある場といえる。

学識経験者の聞き取り調査においても、人が住み、捕食者の生息する島での繁殖は考えにくいなどの所見が得られている。

以上のように、今回の調査の結果、計画地点においてカンムリウミスズメの繁殖の可能性を示唆する情報は無い。

《専門家の見解》

1. 現地調査

- ① 既知の繁殖地において幼鳥の巣立つピーク頃と考えられる5月初旬の調査で、計画地点周辺海域においてカンムリウミスズメが確認されず、計画地点において繁殖を肯定する情報は得られなかった。
- ② 7月にカンムリウミスズメが相当数確認されたことは、他の地域で繁殖・成長したカンムリウミスズメが移動してきた可能性が考えられる。
- ③ 8月には、祝島の北西部で1個体が確認されたのみである。7月に見られた個体の集中は見られず、大部分はこの地域より移動していったものと考えられる。

以上のことから、今回の現地調査結果を見る限り、計画地点周辺でカンムリウミスズメが繁殖している兆候は確認されなかった。

2. 営巣地条件

- ① 計画地点は本土と橋で繋がった有人の島であり、タヌキやテンなどの捕食者が相当数生息しており、カンムリウミスズメの生息条件には適していない。カンムリウミスズメ研究の基本となる多くの発表をされている研究者によると、「ある程度の島民が定住し、肉食性ほ乳類の生息する島での繁殖は知られておらず、そのような島での繁殖は考え難い」との見解であった。
- ② 荒天時でも波飛沫に洗われないであろう海拔10m以上の岩壁は、計画地点南岸の小島から放水口予定地付近と、取水口予定地のある北岸の一部にみられるが、深い割れ目などの空隙は少なかった。
転石地では岩の隙間の随所に空隙を伴っているが、大半が海拔5m以下である。少数でも波飛沫の影響を受けない所に空隙が存在すること自体は営巣可能な場があるといえるが、そのような空隙は当該海域の島嶼の岩場に普遍的に存在している。
このような海岸部の状況から考えると、繁殖の可能性は全くないと断定することはできないものの、繁殖に適当な場所であるとはいい難い。
- ③ 地元の漁業従事者からの聞き取りでは、カンムリウミスズメの可能性のある海鳥が計画地点周辺海域で確認されているが、計画地点での繁殖を示唆する目撃情報は含まれていなかった。

これらのことから、計画地点におけるカンムリウミスズメの繁殖の可能性は、ほとんどないものとする。

3. 今後の取り組み

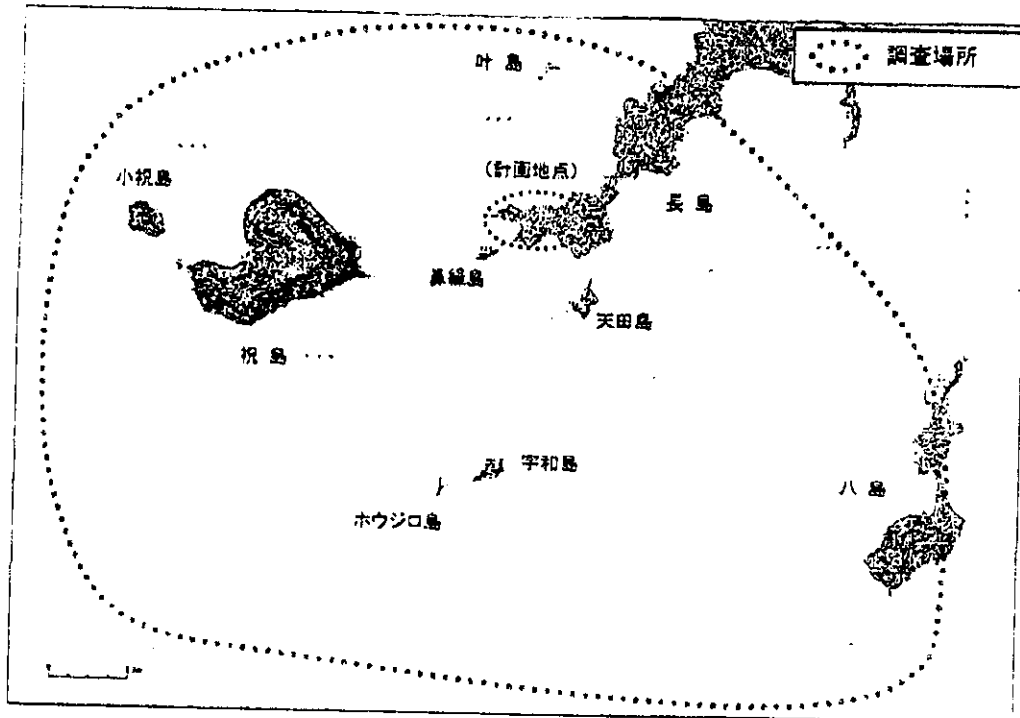
カンムリウミスズメについては生態や生活史に応じた分布などが解明されていないことなどから、カンムリウミスズメの重要性や希少性に鑑みて、計画地点及びその周辺における繁殖の有無等を確認する調査を継続していくことが必要と考えられる。

図1. カンムリウミスズメ



2008年7月4日 八島南方で撮影

図2. 調査場所



以上